

# 新城市交通量調査 平成 27 年度業務委託報告書（抜粋）

## 1. 調査の概要

### （1）調査の目的

三遠南信自動車道鳳来峡 I C の開通以降の交通実態を明らかにし、本市の観光振興策を検討するために交通量調査を実施し、結果の分析及び平成 25、26 年度交通量調査結果との比較を行い、新東名高速道路（以後、新東名と略記）及び三遠南信自動車道の開通による、市街地部の自動車交通量への影響を整理した。

### （2）調査日時

下記の調査日、時間帯で調査を実施した。

調査日 : 平成 27 年 11 月 27 日（金）

時間帯 : 7 : 00 ~ 19 : 00

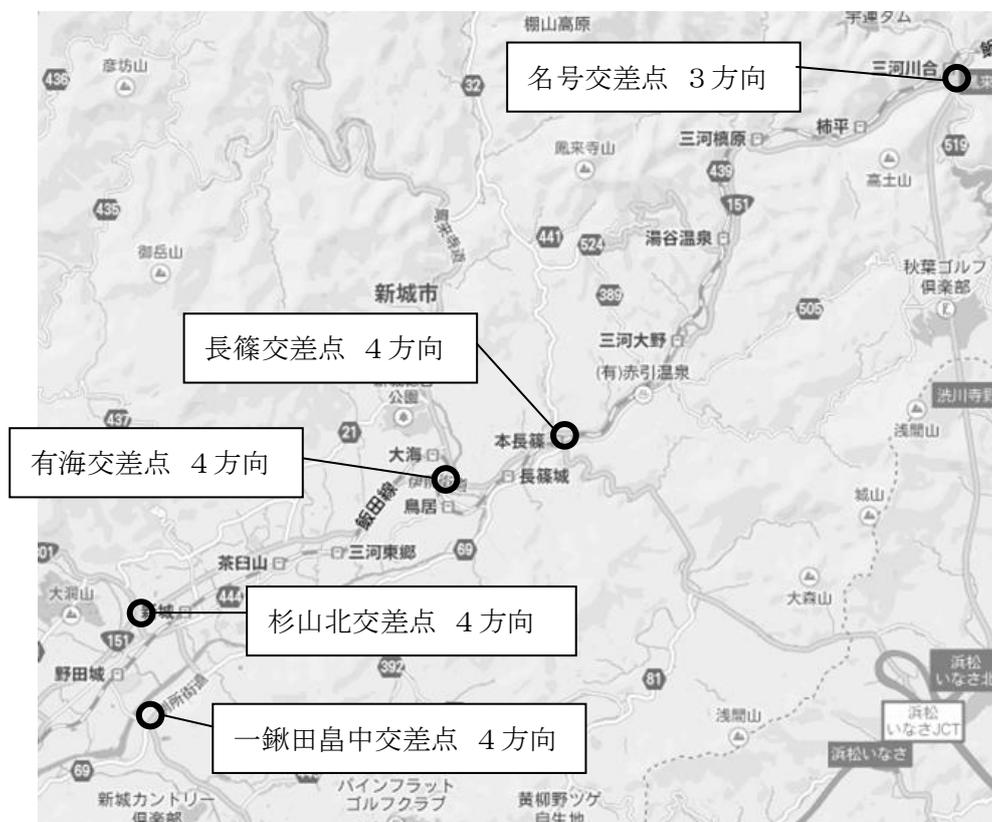
調査時の気候 : 晴れ、最高気温 10.7℃

### （3）その他

調査対象となる車種区分は、小型車、バス、バスを除く大型車、二輪車（自転車含む）の 4 車種とした。

### （4）調査箇所

調査箇所は下図に示す 5 交差点とした。



(google map より作成)

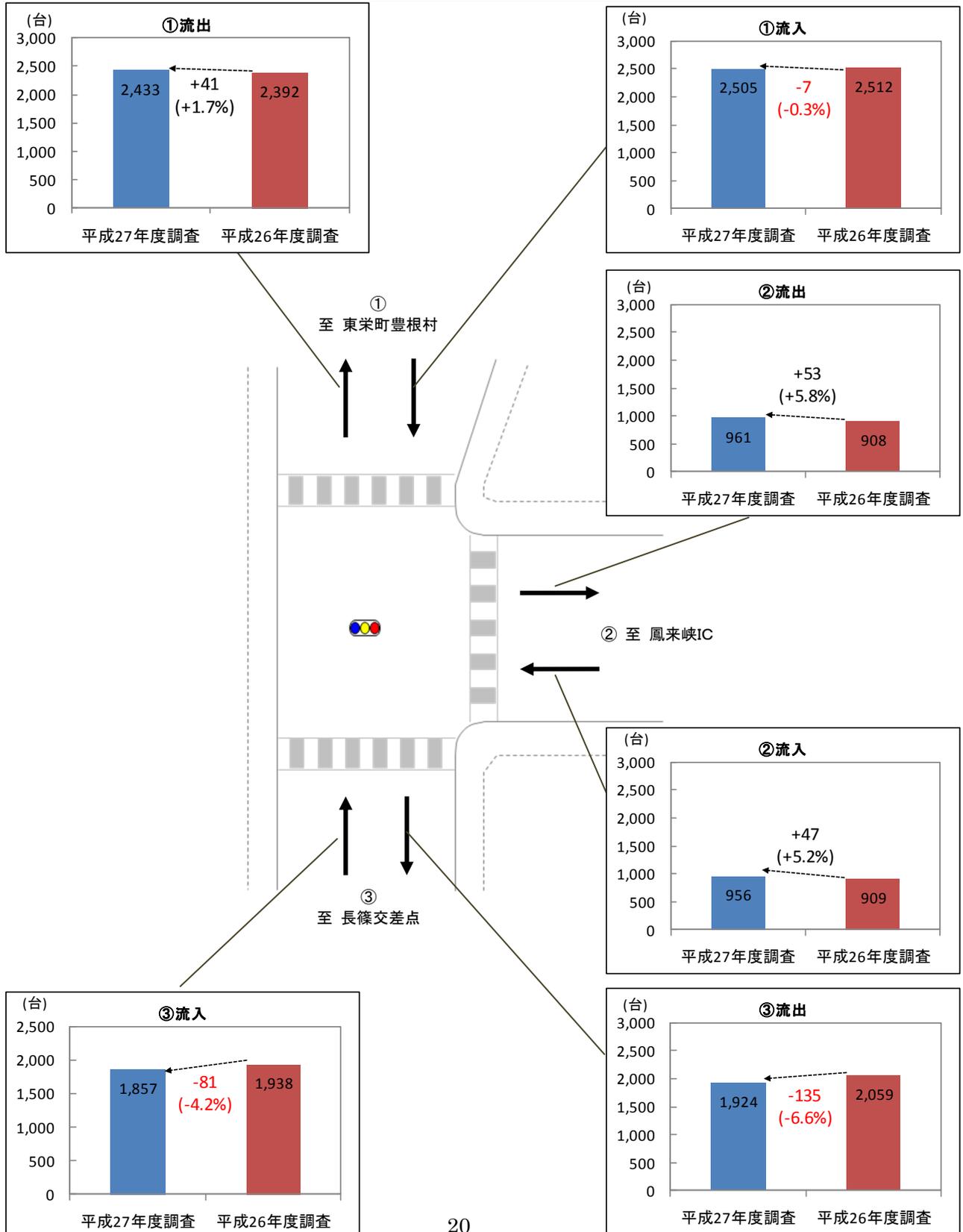
## 2. 交通量調査結果

### (1) 名号交差点

#### ■ 方向別自動車交通量の変化(H26年度との比較)

平成26年度と比較して、東栄町豊根村方向(①)と鳳来峡IC方向(②)では、増減が±50程度にとどまり、大きな変化はなかった。

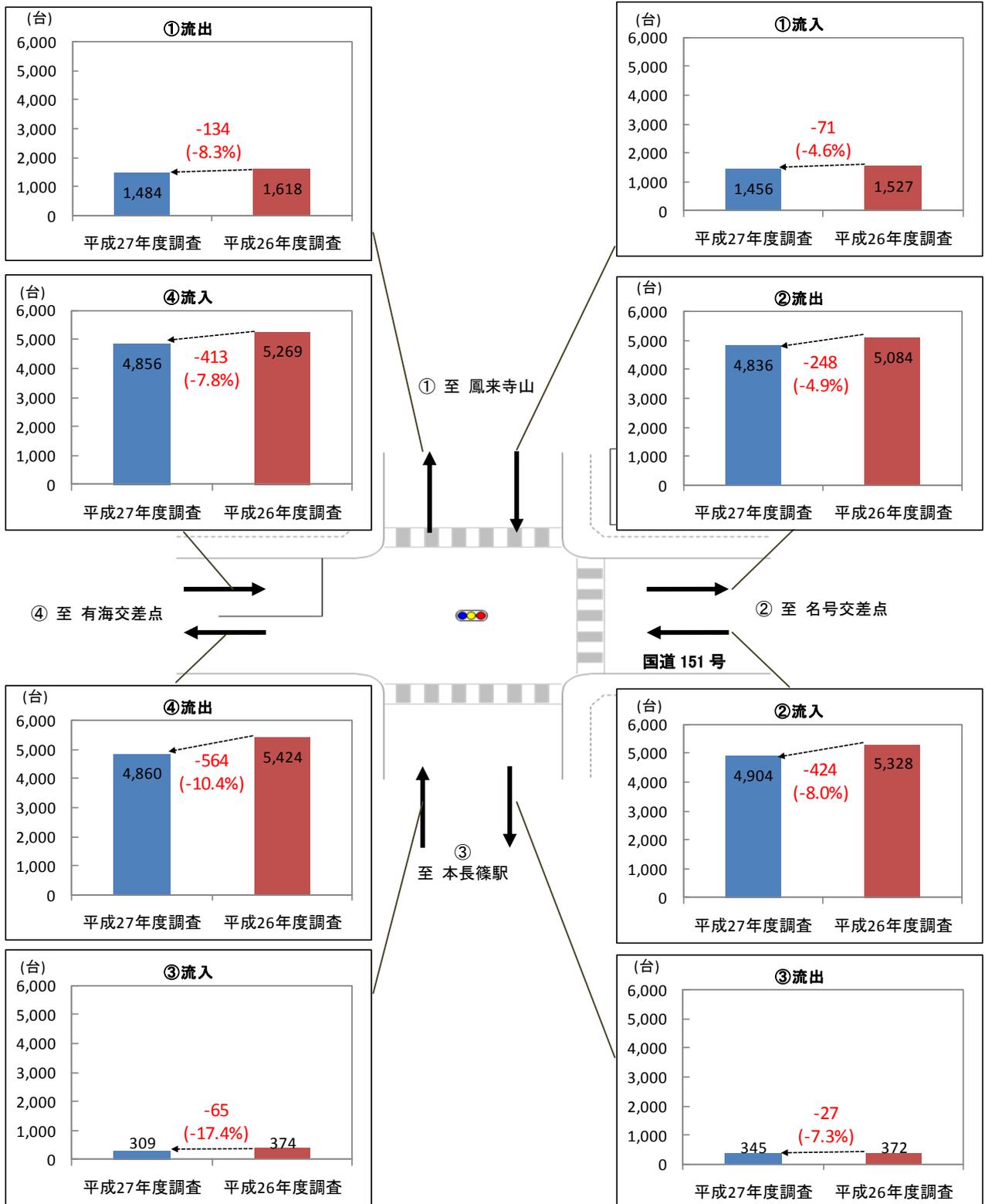
平成26年度と比較して、長篠交差点方向(③)では、流入が81台、流出が135台と微減した。



## (2) 長篠交差点

### ■ 方向別自動車交通量の変化(H26年度との比較)

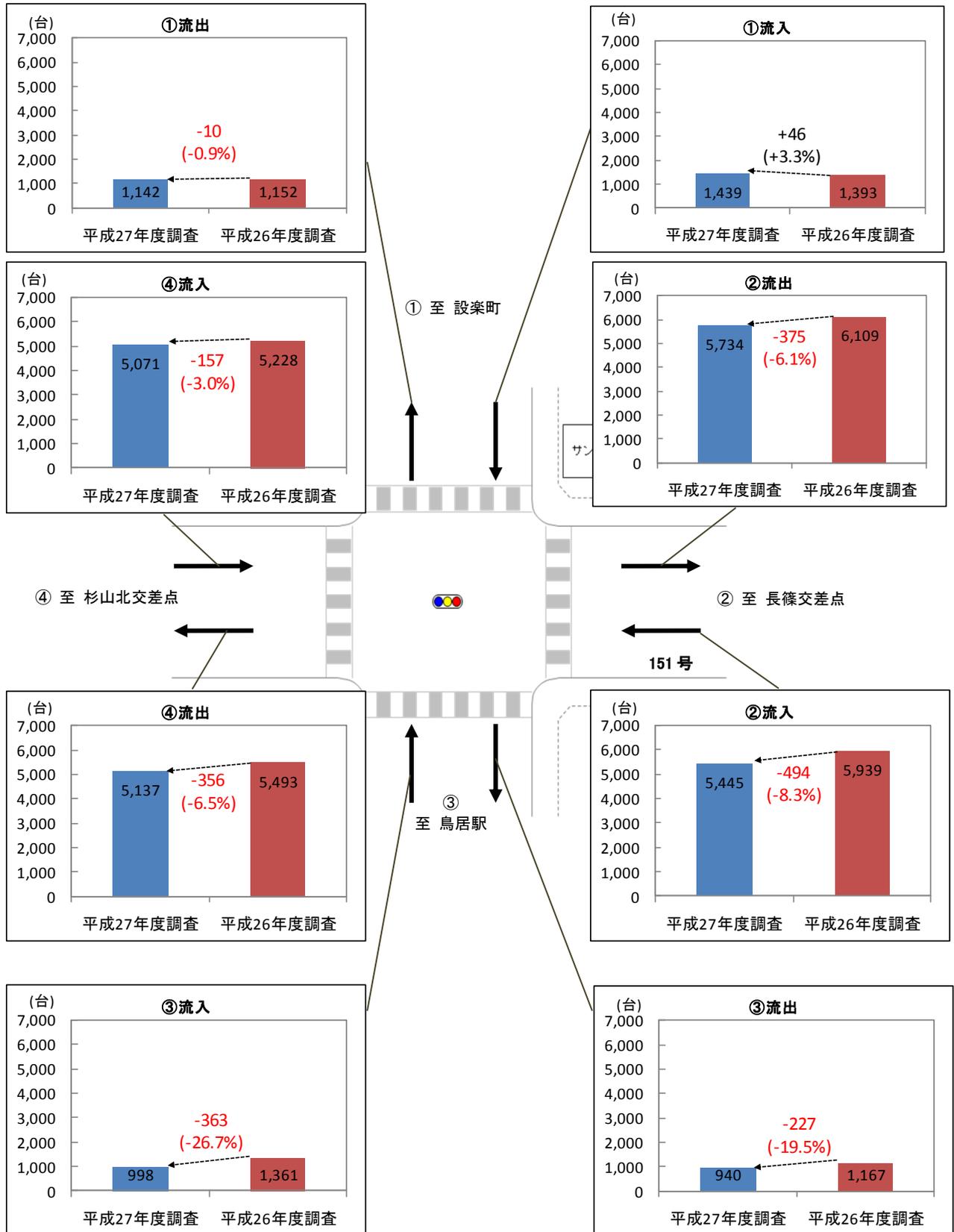
地点や流入・流出を問わず、交通量が減少した。



### (3) 有海交差点

#### ■ 方向別自動車交通量の変化(H26年度との比較)

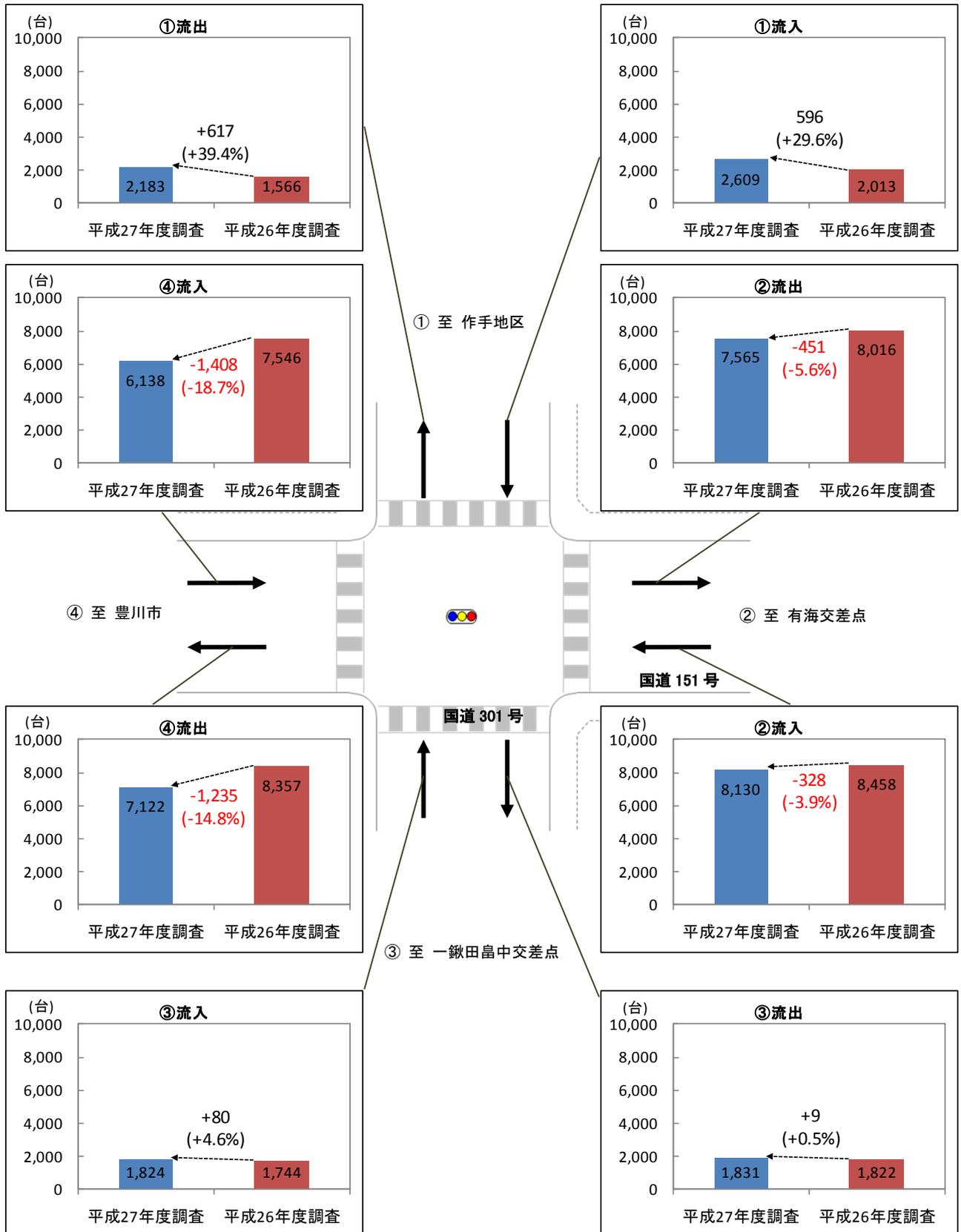
設楽町方向(①)からの流入を除き、前年度と比べて減少している。  
特に長篠交差点方向(②)と鳥居駅方向(③)の交通量は流入・流出ともに大きく減少している。



(4) 杉山北交差点

■ 方向別自動車交通量の変化(H26年度との比較)

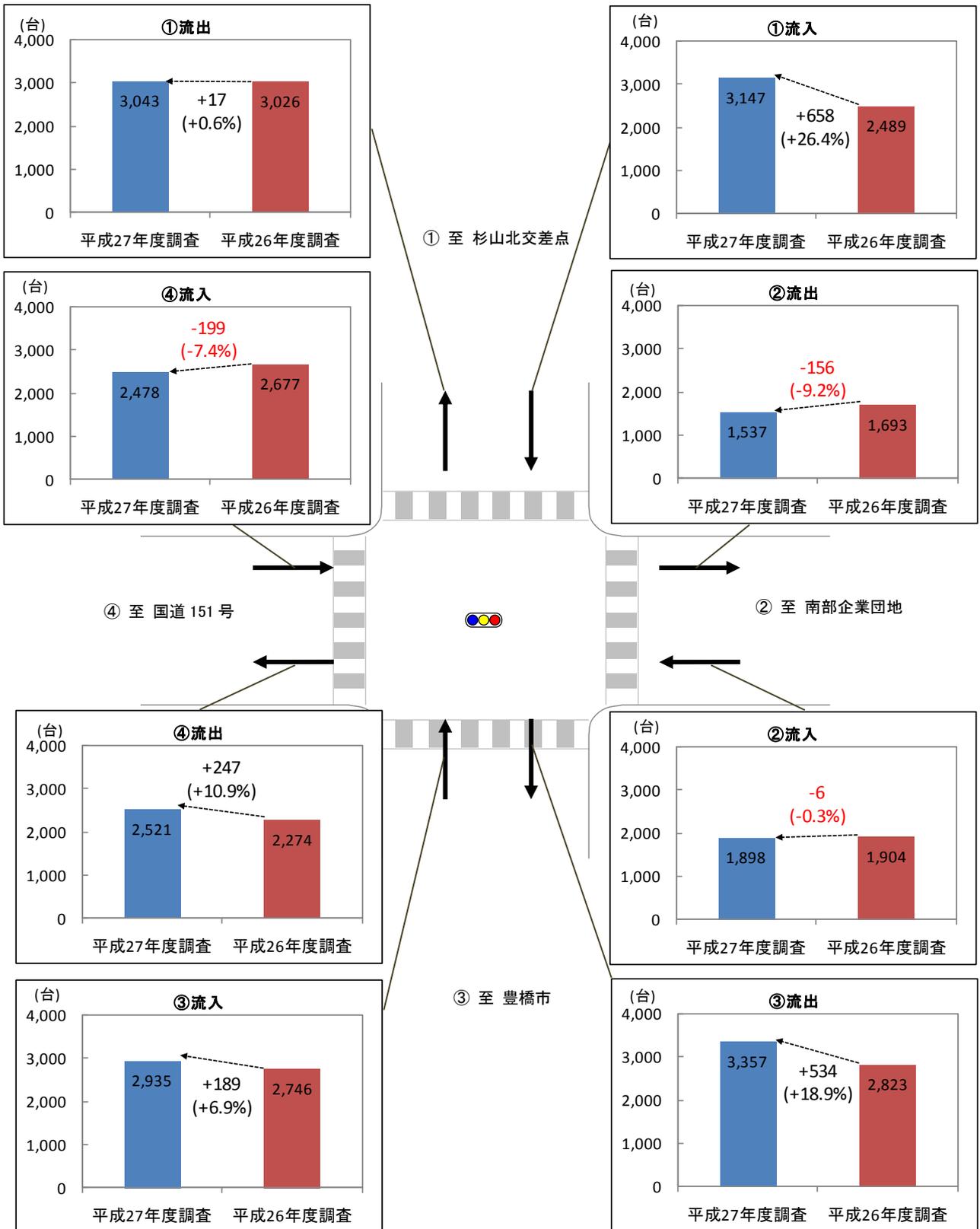
北方向の交通量が増加し、東西方向の交通量が減少している。  
 特に、豊川市方向(④)の交通量の減少と、作手地区方向(①)の交通量の増加が顕著である。



(5) 一鉄田畠中交差点

■ 方向別自動車交通量の変化(H26年度との比較)

杉山北交差点方向(①)の流入と豊橋市方向(③)の流出が大きく増加している。

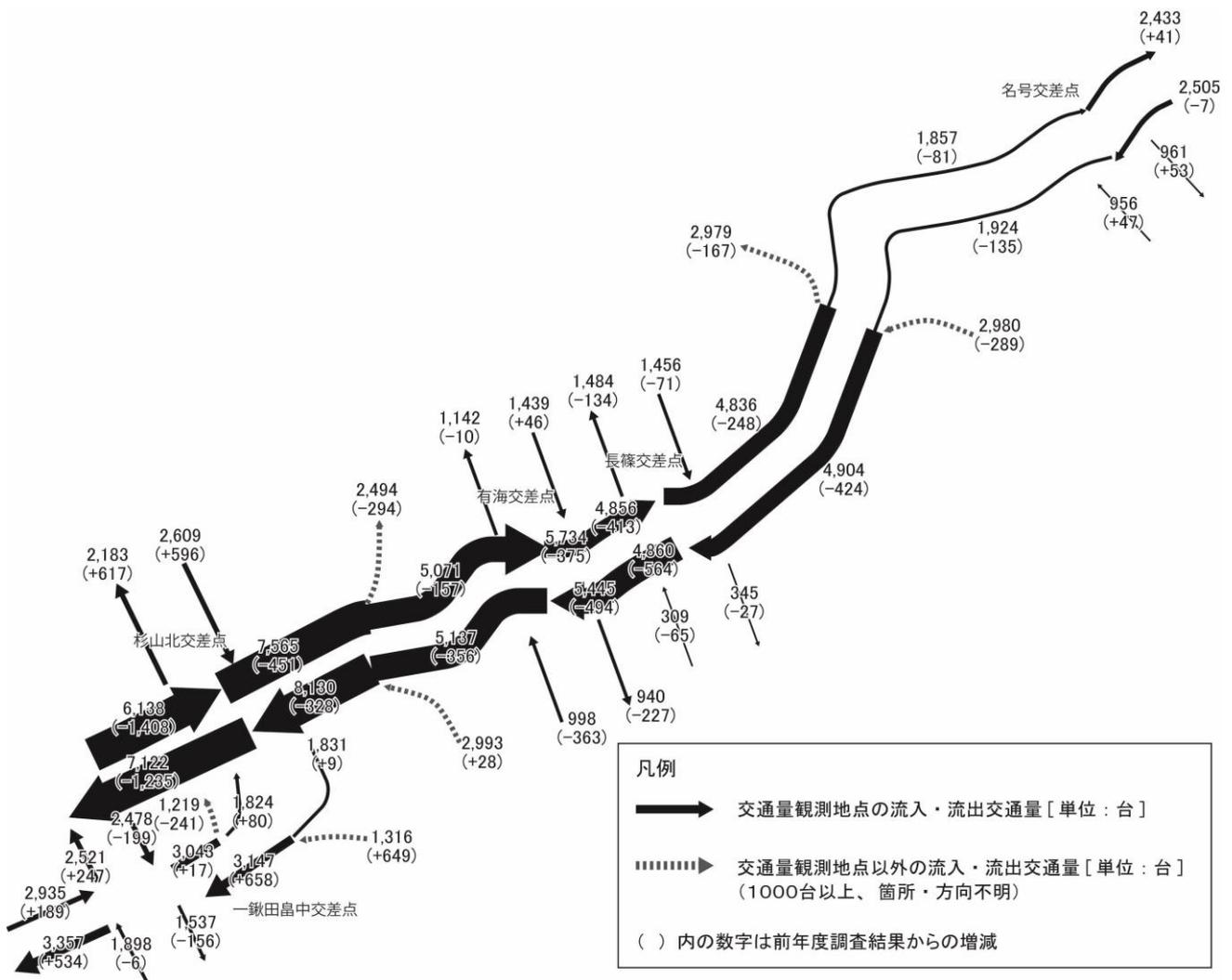


### 3. 自動車交通量全体図（12時間交通量）

#### ■ 自動車交通量

調査地点全体の交通量の調査結果を図に整理した。杉山北交差点に交通の集中がみられるものの、杉山北交差点の東方向の交通量は前年度と比較して、減少している。このことが杉山交差点以東の交通量の減少要因の一つであると考えられる。

一方で、杉山北交差点の作手地区方向への交通量が増加している。



## ■ バス交通量

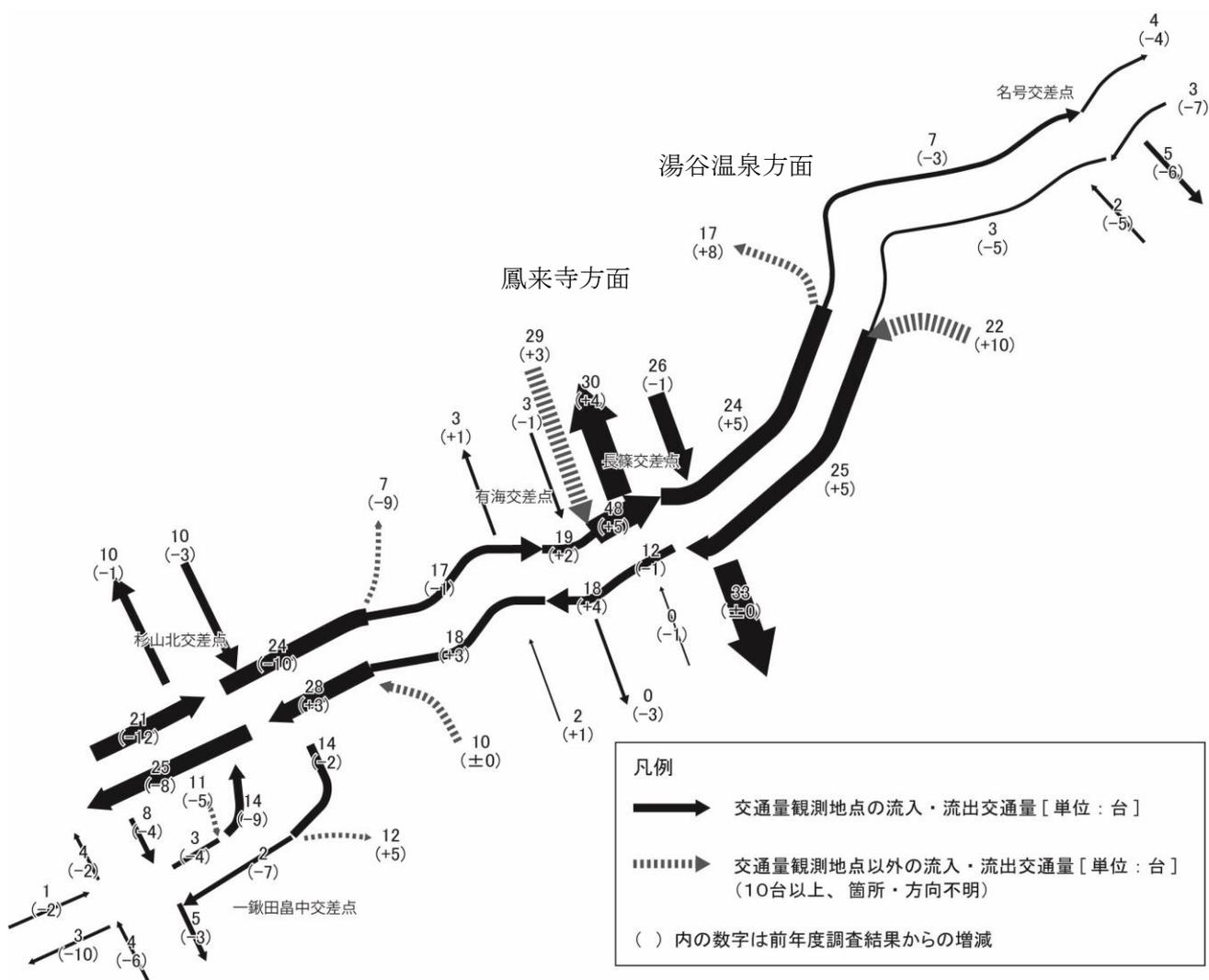
バスは長篠交差点と杉山北交差点に交通量が集中した。

前年度に比べて、杉山北交差点の交通量が微減している。

名号交差点の交通量は減少していることから豊根村方面や鳳来峡 IC からのバスは減少したと考えられる。

杉山北交差点の豊川市方面から向かう交通は減少した。

また、湯谷温泉や浜松いなさ IC に向かう国道 257 号に接続する区間である、名号交差点と長篠交差点の間で国道 151 号に出入する交通量は増加している。

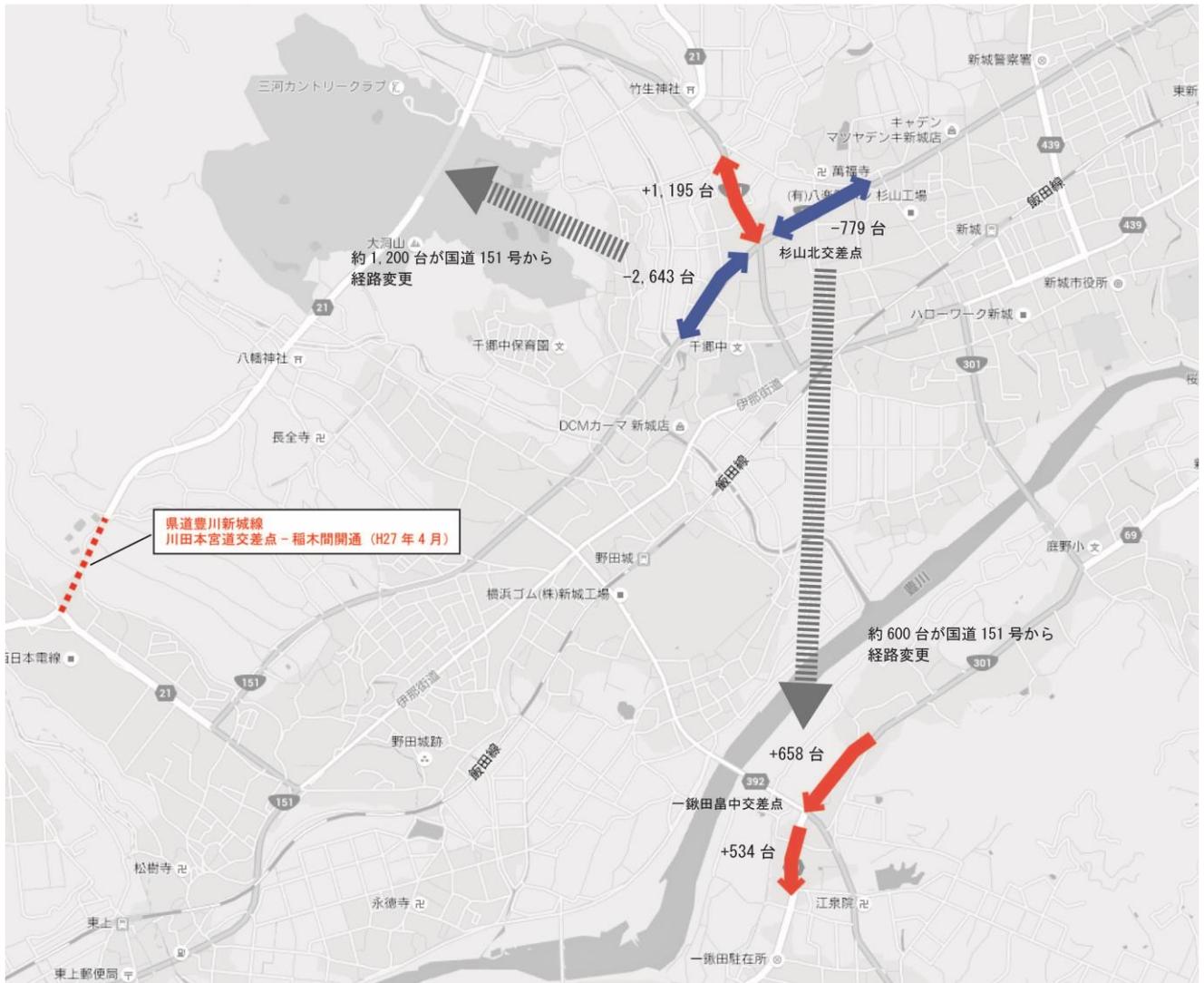


#### 4. 前年度からの交通流動の変化

地点別にみると杉山北交差点の豊川市方面の流出入交通量は前年度から 2,643 台大きく減少した。

平成 27 年 4 月に県道豊川新城線の川田本宮道交差点と稲木間が開通したことで、豊川市方面の交通が県道豊川新城線に流れたことが理由の一つとして考えられる。

もう一つの理由としては、杉山北交差点（国道 151 号）を通過せずに、一鍬田畠中交差点（国道 301 号）を通過して豊橋方面に向かう交通が増えたことが考えられる。



(google map より作成)

## 5. 調査結果のまとめ

### (1) 全体の傾向

- ①国道 151 号線を通る自動車交通量は平成 26 年度と比べて減少している。
- ②主に小型車の交通量が減少している。
- ③減少の理由としては、豊橋市、豊川市方面の交通のために国道 151 号を利用する自動車が減ったためだと考えられる。

### (2) 新東名高速道路及び三遠南信自動車道の利用状況

- ①名号交差点での交通量は、前年度と比べて、大きな変化がないことから、鳳来峡 IC（三遠南信自動車道）を利用する車両の数はあまり変化していないと考えられる。

### (3) バスの交通量の変化

- ①平成 26 年度と比べて、鳳来寺や湯谷温泉方面への交通は増加したと考えられる。
- ②豊根村方面や鳳来峡 IC からのバスは減少した。
- ③豊川市方面からのバスは減少した。
- ④浜松いなさ IC（新東名高速道路）と国道 257 号を使った交通が増加した可能性がある。

### (4) 経路の変化

- ①県道豊川新城線の川田本宮道交差点と稲木間の開通により、豊川市方面への交通では、県道豊川新城線を利用する自動車が増え、国道 151 号を利用する自動車は減ったと考えられる。